

結晶沈着性関節炎と痛風： 今回の特集について

Crystal-induced arthritis and gout : preface

東京女子医科大学膠原病リウマチ内科 教授

Atsuo Taniguchi 谷口 敦夫

Key Words

結晶沈着性関節炎, 痛風,
尿酸塩結晶, ピロリン酸カルシウム結晶,
塩基性リン酸カルシウム結晶, 偏光顕微鏡

Summary

痛風は、高尿酸血症を生化学的基盤として発症し、痛風発作と称される特徴的な関節炎を生じる疾患である。しかし、高尿酸血症があるからといって全例が痛風を発症するわけではない。高尿酸血症と痛風の間には尿酸塩結晶沈着が存在するからである。尿酸塩結晶沈着があると全て痛風を発症するわけではない。エビデンスがあるわけではないが、尿酸塩結晶沈着があると単に高尿酸血症だけよりは痛風発症リスクが高いのではないだろうか。最近の画像診断の進歩によって結晶の同定がより容易になった。また、痛風の治療目標は尿酸塩結晶の消失である。このように結晶沈着という観点から痛風を見る重要性が近年高まっている。この観点からは尿酸塩結晶は関節障害を起こす結晶のひとつに過ぎないので、他の結晶沈着性関節炎の理解も重要になる。そこで、今回は本誌の特集としては23年ぶりに結晶沈着性関節炎をとりあげた。著者の先生方にはこの間の進歩や考え方の変化、新規の方法を用いた解析などについて解説いただいた。この企画を機に、結晶沈着性関節炎が本格的に「再訪」することを期待している。

はじめに

痛風にはいくつかの側面があり、結晶沈着症としての痛風はそのひとつに過ぎないのは確かである。しかし、最近ではこれこそが痛風の病態や治療の理解において最も重要であることが示されている。そこで今回は結晶沈着性関節炎を特集としてとりあげた。本誌で結晶がとりあげられるのは久しぶりである。本稿では結晶沈着性関節炎を特集した理由と目的について述べてみたい。

1 痛風の定義

痛風は表1に示すようにいくつかの定義が可能で

表1. 痛風の定義

1. 痛風は高尿酸血症の合併症のひとつである。
2. 痛風は痛風発作と称される関節炎を主徴とする疾患である。
3. 痛風は関節内に尿酸塩(尿酸一ナトリウム)結晶が持続的に沈着する疾患である。